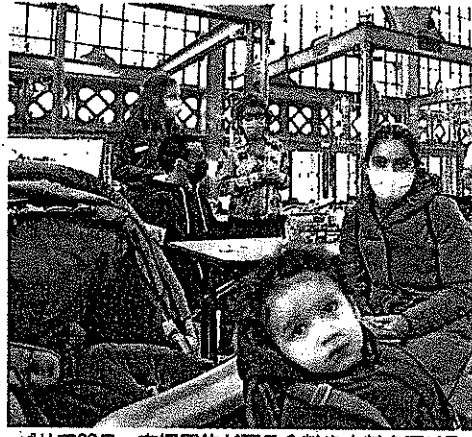


欧州ロックダウン 貧困の波

新型コロナウイルスで2度目のロックダウン（都市封鎖）に見舞われた欧州の国々で、貧困の波が静かに押し寄せている。冷え込んだ経済活動が、非正規雇用で働いていた人々の生活を直撃したためだ。政府の経済支援が切れれば、失業者がさらに増える懸念もある。（パリ＝福田孝博、ロンドン＝山下司佳代子）



パリで22日、支援団体が配る食料や衣料を受け取りに訪れたフランチェスカ・ストイアンさん（右端）。手前は長男のアルカン君＝福田多揚撮影

コロナ禍で各国政府が取った主な貧困対策

- 英国** 冬休中の低所得家庭の子どもの食事などのために、計1億7千万ポンド（約238億円）の支援。各地のフードバンクにも1600万円を追加支給
- フランス** 低所得の世帯に150ユーロ（約1万8千円）の一時金。子1人につき100日（約1万2千円）を加算
- スペイン** 230万人の低所得層向けに、世帯人数に応じて月額最低所得を保障し、462～1015ユーロ（約5万7千～約12万5千円）になるよう支給
- イタリア** 非正規労働者や失業者向けに、11、12月に世帯人数に応じて400～840ユーロ（約4万9千～約10万3千円）を支給

非正規直撃 職探しの外出、不許可

「何度か街に出て、何か仕事がないか探したが、何もなし」。外出許可理由には当たらず、警察に一度職務質問を受けた時は見逃してもらった。以来、罰金135万（約1万7千円）を払うのが怖く、出歩かない。4人で暮らす28平方メートルのパリのアパートの家賃は月額656万（約8万1千円）。3カ月滞納している。食費

を切り詰め、肉を食べるのとは週1回だけ。「コロナで、どれだけ人が簡単に弱い立場に追い込まれるか、かみしめていた」。ラジテイさんの隣に並んだフランチェスカ・ストイアンさん（19）は2歳半の息子向けの古着、1歳半の娘の離乳食やおむつを受け取った。パリから約80キロ離れた郊外の町の25平方メートルのアパートに母子3人で暮らす。490万（約6万5千円）の家賃は1年以上滞納。電車の切符を買うお金に困り、やむなく無賃乗車をしてこの場所にとり着いたという。地元の保育園は定員超過で、受け入れてくれるのは週1日だけ。子育てに加えて、コロナで人とも会えない。「私は誰からも孤立している」

パリ中心部の旧市場を改装した公共施設に22日、赤ちゃんの古着やおむつ、粉ミルク、離乳食が並べられた。小さな子どもを抱え、生活が困難になった親向けにボランティア団体が準備した支援だ。カリム・ラジテイさん（49）は2歳の息子、9カ月の娘の父親。2人のため、1週間分のビスケットや粉ミルク、おむつを受け取った。ラジテイさんは契約を交わさない形で、建設現場や食料倉庫の在庫管理などで働き、毎月800万（約9万8千円）ほどを稼いできた。だが、今月上旬に失業。フランスで10月30日にロックダウンが始まり、食料品の買い出しなどをしていた外出が禁じられた直後のことだった。

ロックダウンを経て、フランスでは1日の感染者が6万人以上となった。今月上旬をピークに減少傾向で、中旬以降は2万人前後となる日が多い。ただ、依然として高い水準で、12月にロックダウンが延長される見通しだ。一方、英国ではロックダウン後も感染者数はほぼ横ばいの状況だ。経済への打撃は大きい。春のロックダウン時に重なる4～6月期のユーロ圏19カ国の実質域内総生産

を切り詰め、肉を食べるのとは週1回だけ。「コロナで、どれだけ人が簡単に弱い立場に追い込まれるか、かみしめていた」。ラジテイさんの隣に並んだフランチェスカ・ストイアンさん（19）は2歳半の息子向けの古着、1歳半の娘の離乳食やおむつを受け取った。パリから約80キロ離れた郊外の町の25平方メートルのアパートに母子3人で暮らす。490万（約6万5千円）の家賃は1年以上滞納。電車の切符を買うお金に困り、やむなく無賃乗車をしてこの場所にとり着いたという。地元の保育園は定員超過で、受け入れてくれるのは週1日だけ。子育てに加えて、コロナで人とも会えない。「私は誰からも孤立している」

食料配布 増え続ける利用



フードバンク準備室で、ボークス・フードバンクのスタッフが食料を準備している

この日食料配布をしたのはボランティア団体「マママ」のスタッフたち。マカリ・フラガールさんが今年5月、仲間と立ち上げた。春のロックダウンの際、パリの公立病院で、感染者からの電話相談のボランティアをしたのがきっかけだ。「18カ月の双子を抱える母親が、今晚あげる粉ミルクがもうない」と電話口で泣き崩れていた。ベビーフードメーカーなどにかきあつて離乳食や生理用品を寄付してもらい、10人ほどに郵送することから始まった。寄付する人も増えたが、受け取る人は10月初めに800人ほどに膨らんだ。先月末の2度目のロックダウンでさらに急増し、いまは4千人に10日分の食料やおむつなどを郵送する。ロンドン東部「ボークス」のフードバンク準備室で、スタッフが食料を準備している

この日食料配布をしたのはボランティア団体「マママ」のスタッフたち。マカリ・フラガールさんが今年5月、仲間と立ち上げた。春のロックダウンの際、パリの公立病院で、感染者からの電話相談のボランティアをしたのがきっかけだ。「18カ月の双子を抱える母親が、今晚あげる粉ミルクがもうない」と電話口で泣き崩れていた。ベビーフードメーカーなどにかきあつて離乳食や生理用品を寄付してもらい、10人ほどに郵送することから始まった。寄付する人も増えたが、受け取る人は10月初めに800人ほどに膨らんだ。先月末の2度目のロックダウンでさらに急増し、いまは4千人に10日分の食料やおむつなどを郵送する。ロンドン東部「ボークス」のフードバンク準備室で、スタッフが食料を準備している

統計表れぬ貧困も

「支援切れ」各国で懸念

（GDP）は年率換算で前期比39・5%減となっている。今回のロックダウンに入る前でも英国では10月の生活保護受給者が570万人にのぼり、3月から倍増している。フランスでは今年1～3月に7・9%だった失業率は、7～9月に9・0%に悪化した。ただ、この数値には契約がない労働者が含まれていないほか、ロックダウンで求職活動が生まれずと懸念されている。

各国政府はコロナによる大規模解雇を避けようと企業向けに経済支援を続けている。今後こうした措置が切れた際に、さらに多くの失業者が生まれると懸念されている。

「いつ食べ物をもらえませうか」ロンドン東部「ボークス」のフードバンク準備室で、スタッフが食料を準備している。国内で1200カ所以上のフードバンクを支援する慈善団体によると、4月の利用者は昨年同期から9割増えた。英BBCによると、学校給食が無料になると、低所得世帯の子どものイングリッシュで現在、約130万人。コロナ禍でさらに90万人増える可能性がある。

「マママ」のスタッフは、金曜日になると、こうした電話を受ける。次に食料を配る日曜日まで、自宅に十分な食べ物がない人たちが、配るのは魚や肉の缶詰や野菜のほか、歯ブラシなどの日用品を入れた袋だ。利用者は大人800人、子ども1500人で年初のほぼ4倍だ。ウォールさんは「何とか生活してきた人たちが、失業したり家族や友人からの支援を受けられなくなったりして、初めて来ている」と言う。これまで年間10万（約1400万円）程度だった支出は、今年4～11月で既に40万に達した。

「マママ」のスタッフは、金曜日になると、こうした電話を受ける。次に食料を配る日曜日まで、自宅に十分な食べ物がない人たちが、配るのは魚や肉の缶詰や野菜のほか、歯ブラシなどの日用品を入れた袋だ。利用者は大人800人、子ども1500人で年初のほぼ4倍だ。ウォールさんは「何とか生活してきた人たちが、失業したり家族や友人からの支援を受けられなくなったりして、初めて来ている」と言う。これまで年間10万（約1400万円）程度だった支出は、今年4～11月で既に40万に達した。